

CONTENTS

前期企画展 津山洋学の名品展	2
第75回文化講演会	3
洋学資料館の夏休み教室開催!	4
友の会の活動	5
NEWS FILE	6
資料館展示品から	7
INFORMATION(催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 30
September, 2022

津山市街から国道179号線を北上、鏡野町の奥津温泉を通過して湯ノ坂トンネルを抜けると、吉井川を挟んで奥津川西（細田）や長藤という集落に行きつきます。この地にあって江戸後期から平成に至るまで代々医療活動に従事したのが石田家という医家一族でした。医家の祖秀賢には長男賢碩、二男良碩、三男右門の三人の息子があり、全員が医師になりました。良碩は長藤で医術を行い、その傍ら私塾を開いて子弟の教育にも尽力しました。良碩の屋敷跡には、没後10年を経た1895（明治28）年に塾生たち300名によって建立された顕彰碑があり、良碩の遺徳を伝えています。（鏡野町長藤）

文・写真：名誉館長 下山純正





「日本石鹼製造事始め —日本における石鹼製造業の勃興と発展—」

第75回 文化講演会

講師 花王株式会社 花王ミュージアム館長 引地聰先生

4月30日（土）、第75回文化講演会を開催しました。今回は、花王株式会社花王ミュージアム館長の引地聰先生を講師にお迎えし、石鹼造りの黎明期に当たる蘭学者の研究業績を受けて、どのようにして日本に石鹼製造業が根付き、発展していくのか、化学と技術の視点を交えながら日本石鹼産業の歴史についてお話しいただきました。

津山藩医で洋学者の宇田川榕菴は西洋からの知識にならって、日本で最初に近代的な手法で石鹼を創製し、内服剤として用いたといいます。そうした江戸時代の石鹼造りの技術的蓄積と伝承により、明治維新後に日本の石鹼産業が勃興することになります。

講演では、まず「石鹼とはそもそも何か」という疑問を投げ掛けられ、化学的には高級脂肪酸のアルカリ塩の総称であり、工業的には動植物の油脂から製造される界面活性剤であることを説明されました。それから、関連年表をもとに、ヨーロッパおよび日本における石鹼製造の産業化過程を解説され、各期の特徴をお話しされました。

そこで、榕菴の時代は、油から脂肪酸だけを取り出す技術がなかったので、油に直接苛性ソーダを混ぜることで自家用の石鹼造りを行いましたが、高濃度のアルカリ剤の人手に苦労したそうです。先生は、明治中期に品質低下に陥った国産石鹼産業が、「花王石鹼」の発売を契機として復興したことなどを説明され、花王創業者長瀬富郎による高品質石鹼の製造は、蘭学者の挑戦を継承・発展させたものであつたと、お話を締めくくられました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、開催の延期が続いており、実に3年ぶりとなる文化講演会でした。参加者は、熱心にメモを取るなど興味深い様子で聴き入っていました。

津山洋学の名品展

会期：令和4年3月19日（土）～9月25日（日）

前期企画展



常設展示には並んでいないけれども、津山の蘭学・洋学を語るうえで貴重な資料のほか、異国文化への関心や明治の文明開化を物語る興味深い資料などを7つのテーマに分けてご紹介しました。

まず、「浮世絵に見る異国情緒」、「浮世絵に見る文明開化」と題したコーナーでは、西洋文化の受容を伝える浮世絵を展示了しました。1859（安政6）年に開港して以降の横浜では、来日した外国人の生活や風俗、舶来の品物など、当時の日本人が興味を持った事柄を描いた「横浜絵」が生まれます。明治時代になると、西洋文化を積極的に取り入れて制度や習慣が大きく変化していく文明開化が起り、その様子を扱った「開化絵」が描かれるようになりました。

次に、「蘭学者のスクラップブック」のコーナーでは、津山藩の洋学者宇田川榕菴が作った「張込帖」を通じて、榕菴の関心が植物の観察図から大砲の図に至るまで多岐にわたっていたことを紹介しました。また、「魔除けのおまじない」のコーナーでは、「疱瘡絵」（赤絵）を展示了しました。疱瘡は、天然痘ウイルスによる致死率の高い感染症です。疱瘡絵には、疫病を退散させる力を持つと考えられた勇猛な武将などが描かれました。そのほか、明治維新における箕作秋坪の活動の幅に注目した「蘭学者の明治維新」、シックな色使いとデザインが特徴の作品を紹介した「オランダの伝統絵付けヒンデローペン」、アメリカ使節ペリーとロシア使節ブチャーチンの来航時の様子を描いた絵巻物などを展示した「描かれた黒船来航」のコーナーもあり、収蔵資料から選ばれた見応えのある名品が並びました。

観覧された方々は、資料をめぐる当時の時代背景に思いを馳せながら、関心を抱いたテーマや印象的に感じた資料を中心にしてじっくりと見入つておられました。

箕作阮甫は、生涯に医学、語学、兵学、地理学、歴史学など幅広い分野にわたつて、99部160余冊もの著書・翻訳書・翻刻書を作成しました。その中の一つが医学書の『泰西名医彙講』です。フーフェランド(Hufeland)ら西洋の医師たちの治験、論説を集め翻訳したもので、現在の医学専門雑誌の創始とも言われています。

第一集は天保13年(1836年)、阮甫が38歳の時に刊行され、第二集は翌年、第三集は天保13年に刊行されました。翻訳は阮甫自身が行つたものが多いですが、ほかにも牧穆中・緒方洪庵らが翻訳を寄せて



参考文献

- 呉秀三『箕作阮甫』株式会社恩文閣、昭和46年復刻
日蘭学会編『洋学史事典』株式会社雄松堂出版、昭和59年
蘭学資料研究会編『箕作阮甫の研究』株式会社恩文閣出版、昭和53年

資料館展示品から

日本最初の医学専門雑誌

『泰西名医彙講』

この書を出版する際、阮甫は出版資金の確保に苦労したようで、第三集刊行の年に作つた漢詩には「貧典」衣装」刻」彙編」(貧乏名医彙講)を刻す)の一節があります。

阮甫はなぜそこまでして翻訳書の刊行を行つたのでしょうか。

その答えが阮甫の孫の呉秀三がまとめた『箕作阮甫』の中になります。阮甫の長女で、秀三にとつては母であるせきの述懐に、阮甫は「今はかように何の益にもならぬこと

だ醒めないのに先だつて只管勉強して置いて、國家のため学問のために尽くそうとしているのである。今一時の困窮は何でもない」と言つて家事など余り心配せず、貧乏も平氣だつたというのです。

いわゆる「鎖国」下において、世間の人々の目がまだ海外に向けられていない中、阮甫はいち早くその必要性を認識して翻訳に取り組んだのです。のちにペリー来航から開国へと向かっていく中で、阮甫の翻訳書は人々に海外の知識を伝える、大きな役割を果たすことになります。

をしていくようであるが、世人の迷夢が未

文: 学芸員 田中美穂

NEWS FILE
津山市立加茂中学校
SDGs調べ学習

公開科研集会、資料館で開催
「19世紀を中心とした軍事的学知をめぐる人と書物の交錯」

要が行われました。
法要後のミニ講座では「宇田川
榕菴の生涯と業績」と題して当館
ティアガイドの会の皆さんのが資料
館で研修を行いました。職員の案
内で展示室をめぐり、ガイドをす
る際のポイントなどについての説
明を熱心に聴き入っていました。

ボランティアガイドの会
資料館で研修を実施

7月6日(水)、津山市ボランティアガイドの会の皆さんのが資料館で研修を行いました。職員の案内で展示室をめぐり、ガイドをする際のポイントなどについての説明を熱心に聴き入っていました。



榕菴忌法要後の
ミニ講座に学芸員出講

新規採用教職員津山市研修会

8月19日(金)、津山市教育委員会による新規採用教職員津山市研修会が資料館で開催されました。職員の案内で展示室を見学し、児童・生徒の見学の際に心がけてることなどについて、相槌をうちながら耳を傾けていました。



8月11日(木)、科学研究費助成事業(科研)である「19世紀を中心とした軍事的学知をめぐる人と書物の交錯」の研究プロジェクトの皆さんのが、資料館で公開集会を開催しました。

最初に当館館長が「津山藩の洋学者と西洋の『兵学』」と題して基調講演を行い、次に武藏野大学教養教育リサーチセンター、湘南鎌倉医療大学非常勤講師の竹村厚士先生による研究発表「ジエンナーナー、ナポレオン戦争、幕末の蘭

方医学」がありました。続いて中央大学教授の鈴木直志先生による「あるドイツ兵書の遍歴—シャルンホルスト『野戦必携』の伝播と受容」、昼休みのうちに早稲田大学教授の谷口眞子先生による「幕末維新时期における西周と津田真道—三津同盟構想に寄せて」の発表がありました。

公開集会前日の10日(水)には職員や下山名譽館長の案内で旧津藩煙硝蔵跡など市内の史跡の見学会も実施しました。



史跡見学会

INFORMATION

令和4年度の催し物(予定)

企画展

4月	企画展「津山洋学の名品展」	3/19~ 津山洋学の名品展
	30 第75回文化講演会「日本石鹼製造事始め -日本における石鹼製造業の勃興と発展-」 講師:花王株式会社花王ミュージアム館長 引地聰先生	
	30 友の会総会 (休館日:11・18・25日)	
	(休館日:2・6・9・10・16・23・30日)	
	(休館日:6・13・20・27日)	
	30 親子でヒンデローペンの作品づくり	
	31 ヒンデローペン絵付け体験教室	
	(休館日:4・11・19・20・25日)	
	6 江戸時代の化学書からの再現実験教室	
	27 からだのしくみを学ぼう!	
8月	(休館日:1・8・12・15・22・29日)	~9/25 10/15~見た世界 ~11/13
	3 近世・幕末維新期「海洋国家」と「異国」研究会公開研究大会(上廣歴史文化フォーラム) (休館日:5・12・20・21・26・27日)	
10月	企画展「蘭学者が見た世界 - 箕作省吾と新製輿地全図 -」 (休館日:3・11・12・17・24・31日)	12/3~ 鶴田藩医能勢家資料展(仮) ~2/19
	友の会史跡見学会 (休館日:4・7・14・21・24・28日)	
11月	企画展「鶴田藩医能勢家資料展(仮)」 (休館日:5・12・19・26・29~31日)	
	29 職員による研究報告会 (休館日:1~3・10・11・16・23・30日)	
12月	(休館日:6・13・14・20・24・27日)	~2/19
	(休館日:6・13・20・22・27日)	

企画展

催し物

講演会

友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更になることがあります。
なるべく資料館ホームページでご確認ください。

...令和4年度秋季企画展...



蘭学者が見た世界 - 箕作省吾と新製輿地全図 -

会期: 10月15日(土)~11月13日(日)

...令和4年度冬季企画展...



鶴田藩医能勢家資料展(仮)

会期: 12月3日(土)~

令和5年2月19日(日)

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
祝祭日の翌日・年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料／

一般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分